

教養科目		社会科学部・看護学部・アニメーション学部・人間科学部				2026年度 カリキュラムマップ									
教養科目のDP(ディプロマ・ポリシー)															
自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	豊かな教養と確かな専門知識・技能を身につけている。												
	DP2	情報の活用	目的に応じて情報を収集し、それを活用できる力を身につけている。												
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	科学的、論理的な思考力と創造力を持ち、主体性をもって自ら学び続けることができる。												
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	多様性を尊重し、共に生きるためのコミュニケーション能力と表現力を身につけている。												
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	グローバルな視野と国際感覚を持って、地域社会で積極的に活動できる。												
	DP6	課題解決力	困難に立ち向かい、知識を活かして「知恵」とし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。												
信じられる能力を	DP7	自己効力感	知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を発揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。												
◎:科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○:科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △:科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)															
授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
人間力育成科目	◆ きびこく学	1	1	春	○	順正学園及び吉備国際大学、またキャンパスのある地域の歴史・文化・社会の特色や課題について多角的に学び、吉備国際大学の学生としての知的基盤を培う科目である。この科目は、吉備国際大学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する」教育への序論として位置づけられる。	◎	△	◎	△	◎	◎	◎		
	◆ SDGs概論	1	1	春	○	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的、実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならぬかを考え、実行しようとする能力を身につける。	△	○	◎		◎	◎			
	◆ グローバルスタディーズ入門	2	1	春または秋	○	社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、基本的な世界の常識を学びつつ、日本人としてのアイデンティティを確立することを目指す。具体的なイシューを題材とし履修者で議論し、問題解決型学習の実践を行なう。	○		◎		◎	◎			
	◆ 課題解決演習	2	1	秋	○	これまでに学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような手法であれば課題が解決へのアプローチを検討を行う。以上の能動的学習経験により、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。		△	△	○	○	◎	◎		
キャリア教育科目	◆ キャリアデザインⅠ	2	1	春	○	この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画(キャリアデザイン)し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につけることを目標に、社会が求める人間像(自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力)について考え、自分自身を知り目標をもって実行していく力を習得する。 具体的には、合同授業で、社会人としてのキャリア形成に必要な知識等を理解し、学科単位の授業では、各学科が目指す人材像について深く学び、資格取得や卒業後の進路選択に向け、社会人となるための基礎を築く。キャリアポートフォリオを活用し、目標設定と振り返りにより卒業時を見据えた効果的な授業を行う。			◎	○		△	◎		
	◆ キャリアデザインⅡ	1	2	春	○	自身の長期的なライフプランを考え、進路選択に向けて必要な情報収集をするとともに、それを活用し職業・企業理解に必要なスキルを身につける。同時に、2年次の目標を設定し、活動記録の入力、振り返りなどキャリアポートフォリオを作成するとともに、大学生として必要なマナーや、就職活動や実習に向けての心構えなどあわせて身につける。		△	◎	○		△	◎		
	◆ キャリア実践Ⅰ	1	3	春	○	社会人として必要な自己表現力などとともに、就職活動に必要なスキルを身につけ、自身の「キャリアプラン」を実現するための方法を学ぶ。具体的には、就職先となる企業や施設の研究、また就職活動の手法(エントリーシート・履歴書、面接対策等)を就職活動の流れに沿って実践的に学ぶ。また、社会や就職活動で必要な会話術、面接、グループディスカッションの場面での自己表現力の育成も合わせて行う。実際に企業見学やインターンシップにも参加する。		○	○	○		○	◎		
	キャリア実践Ⅱ	1	3	春		「キャリア実践Ⅰ」に引き続き、就職活動に必要なスキルや能力の向上を図る。就職活動に必要なエントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、試験に多く用いられるSPI対策、キャリアポートフォリオの就活への活用など、就職活動に必要な就職活動に実践的に役立つ内容を学び、実行する。		○	○	○		○	◎		

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
数理・情報活用科目	◆ 情報活用	2	1	春	○	高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要なとされる基本的なコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。	○	◎	△						
	数理・データサイエンス・AI基礎	2	1	秋		今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。 基礎編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「導入(社会におけるデータ・AI利活用)」「基礎(データリテラシー)」「心得(データ・AI利活用における留意事項)」で構成される。	○	◎	△			○			
	数理・データサイエンス・AI応用	2	2	春		今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。 応用編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「基礎(データリテラシー)」「選択(オプション)」で構成される。 数理・データサイエンス・AI基礎の単位取得が履修の前提である。	○	◎	△			○			
言語教育科目	外国語	◆ 英語基礎Ⅰ	2	1	春	○	高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。 「アクティブ英語Ⅰ」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
		◆ 英語基礎Ⅱ	2	1	秋	○	「英語基礎Ⅰ」に引き続き、高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。 「アクティブ英語Ⅱ」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
		◆ アクティブ英語Ⅰ	2	1	春	○	ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎Ⅰ」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
		アクティブ英語Ⅱ	2	1	秋		「アクティブ英語Ⅰ」に引き続き、ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎Ⅱ」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
		レベルアップ英語Ⅰ	2	2	春		海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けての支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
		レベルアップ英語Ⅱ	2	2	秋		「レベルアップ英語Ⅰ」に引き続き、海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けての支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
		中国語と中国文化Ⅰ	2	1	春		中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
中国語と中国文化Ⅱ	2	1	秋		「中国語Ⅰ」に引き続き、中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎					

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
言語教育科目	外国語	フランス語とフランス文化Ⅰ	2	1	春		フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		フランス語とフランス文化Ⅱ	2	1	秋		「フランス語Ⅰ」に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		ドイツ語とドイツ文化Ⅰ	2	1	春		ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		ドイツ語とドイツ文化Ⅱ	2	1	秋		「ドイツ語Ⅰ」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	日本語（留学生専用科目）	◇ 日本語ⅠA(文法)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠA(読解)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠA(聴解)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(文法)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(読解)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(聴解)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
* 日本語ⅡA(文法)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎						

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
言語教育科目	日本語（留学生専用科目）	* 日本語ⅡA(読解)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡA(聴解)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡB(文法)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡB(読解)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡB(聴解)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
基礎教育科目	社会の理解	日本国憲法	2	1	春 または 秋		日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べるができることを目指す。「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎		◎	○			
		経済学	2	1	春 または 秋		私たちの暮らしの中の経済の仕組みや経済活動について学び、大学生として必要とされる経済学の基礎を身につける。 経済学のすべての分野に共通する理論分野であるミクロ経済学では、個々の消費者の行動や個々の消費者の行動や企業の行動に関する分析をもとに、価格メカニズムについて分析していく。具体的には経済学の考え方、需要と供給、価格弾力性、市場の構造と価格分析、公共財と共有資源問題などに関する基礎的知識を修得する。なお、豊富な事例を取り上げ、現実経済問題に関する理解を深める。	◎		◎				
		社会学	2	1	春 または 秋		社会学は我々にとって身近な「社会」を扱う学問である。そのため、本講義では、「社会学を理解する、覚える」のではなく、「社会学を応用する力」を身につけることまでを目標とする。まず最初に基礎的な社会学の理論、社会学的な分析の方法を身につけた上で、人口、家族、地域、エスニシティ、環境、医療、福祉、産業、労働など、様々なテーマを挙げ、各事例に対して、社会学的なアプローチから考察を加える。	◎	△	◎	△	△		
	人間形成	哲学	2	1	春 または 秋		哲学の基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、代表的な思想家の考え方とその背景を学ぶ。哲学とかかわりの深い倫理学・宗教学についての基礎も合わせて学ぶ。 古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。	◎		◎	△			
		心理学	2	1	春 または 秋		心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解する。	◎		◎	△			△
		多様性の理解	2	1	春 または 秋		異文化をはじめ、人種や宗教、性別やLGBTなど、現代社会における多様性について、それぞれの現状と課題を理解し、ダイバーシティ実現のために何が必要か、また自らが何かできるかを考え、積極的に行動しようとする態度を育成する。(人権教育を含む)				◎	◎		

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
基礎 教育 科目	人間 形成	文章力の基礎	2	1	春 または 秋		大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。	◎		◎	○				
		美術の見方	2	1	春 または 秋		自分なりの美術の見方を確立することをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語ることができる能力を身につける。毎回映像資料による対話型鑑賞を行い、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べ考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深めていく。	◎		◎	○				
		生涯スポーツ論	2	1	春 または 秋		少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味が多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。	◎		○	○				
		生涯スポーツ実習	1	1	春 または 秋		様々なスポーツ種目を通して、スポーツの楽しさと健康増進の効果を理解し、生涯にわたリスポーツに親しみ、健康的な生活を送ろうとする態度と知識を習得する。	△			◎				
	自然 科学	数的理解	2	1	春 または 秋		迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。	◎	◎	◎			△		
		化学	2	1	春 または 秋		基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、身のまわりの現象や物質などを取り上げ授業を行う。将来の種々職業や生活に役立つ化学的な知識を修得する。	◎		◎					
		生物学	2	1	春 または 秋		生物の基礎ともいえる生態、細胞や遺伝などに加え、人の健康に深く関係する生活習慣病などの幅広い知識を習得し、生物現象を広く正確に把握できる。 地域における森や植物、河川や水生生物の学習、更に海と沿岸生物、魚類生態などの諸分野の幅広い生物生態学の知識を学ぶ。加えて生物学と医学、細胞・遺伝などの基礎生物学を学び、それらをもとに老いと生物学、ヒトの一生と健康な生活などの基礎医学の諸分野、また再生医療や環境問題などこれからの生物学に関する広範囲の知識を習得する。	◎		◎		△			
		環境科学	2	1	春 または 秋		現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題(地球温暖化、オゾン層の破壊、環境ホルモン等)が生じている。我々にとって種々のレベルでの環境状況を正しく把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、先見的な問題意識をもって対応をすることが重要である。本講義ではこれらに関連する問題をDVD映像などにより理解し、その対策について考え、地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとする。	◎		○		△	△		

◎	35	4	39	18	12	4	6
○	3	2	2	8	1	0	0
△	2	16	4	4	3	4	1
合計	40	22	45	30	16	8	7

学部名	社会科学部	学科名	経営社会学科	2026年度 カリキュラムマップ
-----	-------	-----	--------	------------------

経営社会学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

本学科の課程を修め、学則に定める卒業に必要な単位を修得し、下記の3つの力に加えて豊かな人間性と持続可能な社会の実現に寄与できる力を身につけた人に対して学位を授与します。			
自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	組織経営の仕組みや社会の仕組みが理解できる能力を身につけている。経営学や社会学の分野における専門的思考能力と実行力を修得し、企業経営や社会における様々な課題についての確な判断と課題の解決ができる。
	DP2	情報の活用	社会・経済に関する情報を経営学的視点から分析し、組織の経営に活かすことができる。また、社会学的視点から分析した人間社会についての知識を修得している。
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	科学的な知識と論理的な思考力をバランスよく備え、社会人としての役割を理解し、常に学び続けながら自分自身を成長させようとする意欲と社会に貢献しようとする態度を持ち続けることができる。
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	自分の考えを表現する力を有すると共に、多様な意見を尊重することができる聴く力を身につけ、社会で生き抜くためのコミュニケーション能力を身につけている。加えて、協調性と創造性を併せ持つ豊かな人間性と社会の変化に柔軟かつ的確に対応できる能力を身につけている。
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	グローバルな視野と国際感覚を持って、地域課題の解決に取り組み、自らの意思で持続可能な経済社会の実現に向けて行動することができる。
	DP6	課題解決力	自ら課題を発見する力と知識を活用する知恵を身につけ、困難に立ち向かい、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。
信じられる能力	DP7	自己効力感	知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を発揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。
	DP8	行動力・実践力	自ら目標を設定し、目標を達成するために行動・実践することができる。

◎: 科目の到達目標が該当のDPIに直結する科目 (100%) ○: 科目の到達目標が該当のDPIに関わる科目 (70%) △: 科目の到達目標が該当のDPIに少し関わる科目 (30%)															
授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
演習・卒業研究	◆ 基礎演習Ⅰ	2	1	春	○	本講義は、大学で学ぶ上で必要な基礎的知識、学習スキルを習得するとともに、社会で必要とされるコミュニケーション能力の向上を目指す。 到達目標は次の3点とする。①新入生がスムーズに大学生活を送ることができるよう、大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。③交流活動や少人数のグループ活動を通じて、自己理解力、自己表現力、コミュニケーション力を身につける。			◎	◎					
	◆ 基礎演習Ⅱ	2	1	秋	○	本講義は、大学で学ぶ上で必要な基礎的知識、学習スキルを習得するとともに、社会で必要とされるコミュニケーション能力の向上を目指す。 到達目標は次の3点とする。①新入生がスムーズに大学生活を送ることができるよう、大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。③交流活動や少人数のグループ活動を通じて、自己理解力、自己表現力、コミュニケーション力を身につける。			◎	◎					
	◆ 基礎演習Ⅲ	2	2	春	○	本講義は、大学で学ぶ上で必要な基礎的知識、学習スキルを習得するとともに、社会で必要とされるコミュニケーション能力の向上を目指す。 到達目標は次の3点とする。①大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。③交流活動や少人数のグループ活動を通じて、自己理解力、自己表現力、コミュニケーション力を身につける。			◎	◎					
	◆ 基礎演習Ⅳ	2	2	秋	○	本講義は、大学で学ぶ上で必要な基礎的知識、学習スキルを習得するとともに、社会で必要とされるコミュニケーション能力の向上を目指す。 到達目標は次の3点とする。①大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。③交流活動や少人数のグループ活動を通じて、自己理解力、自己表現力、コミュニケーション力を身につける。			◎	◎					
	◆ 演習Ⅰ	2	3	春	○	「課題探究能力・主体的判断能力の育成」をテーマとして、自主的学習のための基礎知識を身につけ、自らが課題を見つけ出す能力を身につけることを到達目標とする。			◎	◎		◎	◎	◎	
	◆ 演習Ⅱ	2	3	秋	○	「知識に対する自己自身の姿勢を社会との関連の中で理解する」をテーマとして、討論やグループワークを中心とした演習を行い、学科の専門を理解する能力を身につけることを到達目標とする。			◎	◎		◎	◎	◎	

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
	◆ 演習Ⅲ	2	4	春	○	「研究の基礎」をテーマとして、研究に必要な基礎的知識を学び、専門の内容が理解でき、利用できるようになることを到達目標とする。			◎	◎		◎	◎	◎
	◆ 演習Ⅳ	2	4	秋	○	「実践力」をテーマとして、社会調査法、グループでのフィールドワークやワークショップの手法を利用して、自分で研究が遂行できる能力を身につけること到達目標とする。			◎	◎		◎	◎	◎
	◆ 卒業研究	4	4	通年	○	「卒業論文の完成と発表」をテーマとして、演習等で得た能力と、知識を活用して、卒業論文を完成させ、発表会においてプレゼンテーションを行うことによって、本学科卒業生としての能力を身につけることを到達目標とする。			◎	◎		◎	◎	◎
総合科目群	経営学	2	1	春	○	企業経営に関する基本的な理論と概念を体系的に学び、現代社会における経営活動の本質を理解することを目的とする。経営の基本機能（計画・組織・人材・統制）を基礎として、経営戦略、マーケティング、組織マネジメント、財務、会計、オペレーション、経営資源の活用といった主要領域を幅広く取り上げる。さらに、グローバル化やデジタル化、CSR・ESG経営、イノベーションといった現代経営の課題について、事例を通して多角的に考察する。その結果として、企業や組織の経営課題を理解し、卒業し就職した後、産業界や地域において経営的な視点を持って活躍できるだけの能力を養うことを目指す。	◎							
	経営と社会	2	1	秋	○	経営社会学科の学びをサポートするため、経営学と社会学の二側面からアプローチする学習ガイダンスを実施する。本ガイダンスでは、最新の知見や事例を活用し、学生が主体的に経営学や社会学への関心を深め、学問的探求心を育むことを目標とする。	◎							
	地域創造入門	2	2	秋	○	我々人類は「都市」を発明し発展してきた。世界の半数以上が都市に住むようになり、今一度、我々が住むありようについて、問い直す必要が出てきている。本講義では、先史からいままでの地域づくりの歴史を学び、地域創造のあり方について学ぶ。これまでの地域形成過程を学び、地域の文化や歴史などからみた地域づくりに必要な知識を身につけることを目標とする。					◎			
	現代社会論	2	2	春		現代社会論では、グローバル化や情報化、高齢化など現代社会が直面する主要な課題について学ぶ。さらには、社会構造や制度の変化を多角的に捉え、現代に生きる私たちの生活や価値観にどのような影響があるのかを事例をもとに考察する。講義とディスカッションを通じて、社会問題を自らの言葉で説明し、他者と意見を共有できる力を養うことを到達目標とする。			◎		◎	◎		
	起業ラボ	4	3	通年		現代の成熟社会において、起業家精神や新たな価値を創造する力は、さまざまな課題解決に向けた基礎力である。この授業では、模擬起業活動（カフェ経営）を体験することにより、商品企画や店舗運営、営業、会計、組織マネジメントなど、必要な知識と実践力を総合的に身につけることを目標とする。						◎	◎	◎

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
	社会調査実習	4	3	通年		これまでに履修して習得してきた社会調査関連授業の知識を生かし、社会調査の企画から報告書の作成までの社会調査の一連のプロセスを体験的に学ぶことによって、調査の実践能力を高めることを目的とする。具体的な学習方法として、調査票を用いたアンケート調査と、調査を通して得られたデータの統計分析を中心に扱う。 到達目標は、次の5つである。(1)各自、リサーチクエストを設定し、先行研究や既存調査を参考にしながら仮説を提示できる。 (2)各自のリサーチクエストに関連する社会現象の現状や要因を数量的にとらえるために、調査項目を設定できる。 (3)量的な社会調査を実施し、その調査結果を統計的に分析できるような形式にまとめることができる。 (4)量的な社会調査データを統計パッケージを用いて分析し、その結果を表やグラフで表現し、文章で記述できる。 (5)量的な社会調査データを分析した結果にもとづいて報告書を執筆し、社会現象を説明し考察することができる。		◎				◎		◎
経営 科目 目 群	組織論	2	2	春	○	組織の構造・機能・行動に関する理論を体系的に学び、現代の多様な組織運営の課題を理解・分析できる能力を養うことを目的とする。古典的組織論(官僚制モデル、科学的管理法、人間関係論など)から現代の組織行動論、組織文化論、ネットワーク型組織や現代の組織論までを学ぶ。また、組織における意思決定プロセス、権限と責任の分配、コミュニケーション構造、組織変革のマネジメントについて事例を交えながら学習する。その結果として企業、行政、NPO法人など多様な組織において、戦略的かつ効果的に組織を理解・運営するための基礎的知識を身につけることを目指す。	◎		◎					
	人的資源管理論	2	2	秋		本講義は、人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指す。また、労働社会学の観点も取り入れ、人の働き方や意識の側面についてもあわせて理解する。 まず企業における「ヒト」の管理の問題について、歴史的な視点から基本的知識や理論、事例について解説する。そして、働き方の多様化が進む現代の日本企業についても、事例を用いながら多角的に捉えていく。 到達目標としては、人的資源管理の基礎概念を習得し、労働の立場から組織や社会を理解できるようになることである。	◎							
	リーダーシップ論	2	2	春		経営者のリーダーシップを理解することがテーマである。この科目の到達目標は多様な仕事内容や経営者の実像を把握できるようにすると共に将来のリーダーとして、どのように自分を育成していくかを理解すること。また、地域に愛着心を持つと共に地域産業の実態を知ってもらうことを目標とする。					◎			
	生産管理論	2	2	春		生産・工程管理、原価計算、サプライチェーンマネジメントについて説明できるようになり、現場の改善提案能力を身につけることを目標とする。 具体的には、製品やサービスが効率よく作られ、届けられる仕組みについて学ぶ。生産管理論では、計画や在庫、品質管理などの基本を、サプライチェーンマネジメントでは、調達から販売までの流れや企業間連携、IT活用などを扱う。ゲームを通じて理論と実践的な知識を結びつけ、考える力を身につけることを目指す。	◎	◎	◎					
	経営リテラシー入門	2	3	春		企業内で必要とされるリテラシー、資料を読む、作成する、他者に伝える能力を涵養することを目的とする。 企業内における実践は、どのようなものであれ、他者のために資料を作成し、他者の作成した資料を読み、他者に伝えるために資料を構成することが重要なものとなっている。このような他者を意識した経営上必要なリテラシーを、日本企業の実践を学びながら獲得していくことが目標となる。		◎	◎					
	地域経営論	2	3	秋		少子高齢化による社会課題に対し、各自治体は様々なアイデアを用いて解決に取り組んでいる。その中でも、地域特性に基づいたエコシステムを作り上げようとしている中山間地域や離島、震災復興の先進事例地域をケースに学ぶ。 これらのケースから、先進事例が設定した社会課題、その改題解決法と成果を学び、地域経営の手法について学ぶことを目標とする。					◎	◎		
	簿記	2	1	春		「簿記の全体像の理解」がテーマである。企業の経営状態を把握するためには重要な情報源のひとつが会計情報である。会計情報は日々の取引の管理と決算時の会計処理によって構築されている。これら会計処理を行うために必要なのが簿記の知識である。この授業では、簿記、とくに複式簿記の基本的な構造、手続きについて学ぶ。この授業では簿記について知識がまったくなくても初学者が学びやすいレベルの入門講義であり、簿記の専門用語と基本的な事項を理解することが目標である。	◎	◎						

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
ストラ テ ジ ー		マーケティング	2	1	秋	マーケティングは幅広い領域にまたがる企業活動には欠かせないテーマであり、その基礎的理論について学修していく。特に、本講義ではこれまでのマーケティング研究の主体であった市場を形成する企業だけではなく、もう一方の主体である消費者も大きく取り上げ学習を進めていく。 市場は企業と消費者がともに作り上げていくものである。本講義ではその背後にある理論について習得することを目標としている。	◎			◎				
		ビジネスとメディア	2	2	春	この講義では、広告＝マーケティング・コミュニケーションの変遷を振り返るとともに、経営戦略(事業戦略)・マーケティング戦略のあり方と、それに基づく広告＝マーケティング・コミュニケーションの企画制作の実作業について、事例を用いながら解説する。毎回実際のテレビコマーシャルや各種広告、動画コミュニケーションの実例を用いながら解説し、その理解を深める。到達目標は各種広告の企画立案が出来るようになることである。	◎			◎				
		観光ビジネス	2	2	秋	少子高齢化による人口と労働人口のダブル減少に見舞われ、失われた30年とも言われる低調経済の脱出策の1つとして、観光ビジネスがある。近年、日本は急速な観光大国を目指し、2025年度には4000万人を突破すると予想されている。本講義では、岡山県の観光産業の取り組み(現状と課題、解決策)を通じて、日本における観光ビジネスを理解し、多様な観光産業について学ぶことを目標とする。	◎	◎			◎			
		経営戦略論	2	2	秋	○ 企業は今日・明日のことを考えて行動しているわけではなく、5年後、10年後まで視野に入れて様々な意思決定を行い、それに対応する形で行動している。経営戦略論は企業の目標を定めるために必要とされており、ゆえに分野の誕生からわずか数十年で、経営学の中心をなすものとなった。 この講義を通じて、経営戦略論の基礎知識を習得し、それに基づいて経営戦略論の概念を説明できるようにすること、経営戦略論の全体像を理解することを目標としている。	◎		◎					
		国際経営論	2	3	春	「グローバル市場においてグローバル企業の全体像を理解」がテーマである。到達目標は、日本、米国、韓国の事情、企業の経営特徴に関する知識を習得し、それぞれの国の経営について説明と応用ができるようにすることである。また、グローバル戦略論の全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標にする。丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。また、教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報力、計画力、分析力、判断力が養われる。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とコミュニケーション能力が養われる。	◎				◎			
		産業集積論	2	3	秋	地域経済学および産業組織論の視点から、産業集積の形成メカニズムとその経済的効果を体系的に理解することを目的とする。具体的には企業間の水平的、垂直的ネットワーク、知識、労働市場の共有化、インフラ整備など地域経済に及ぼす影響を考察する。また、国内外の代表的な産業集積例はもとより、岡山県内の事例研究を行い、産業集積の維持・発展に向けた政策的な支援や地域戦略のあり方を考察する。その結果として地域産業の競争力強化や持続可能性を理解し、将来の地域経済を担える教養を身につけることを目指す。	◎							
社会 シ ス テ ム 科 目 群	理 論	社会心理学	2	1	秋	テーマ:集団・組織や社会のなかで起こる人間の行動を科学する 本講義では、経営学と社会学を学ぶうえで基礎となるの社会行動における理論と考え方について、さまざまな具体的な事例を交えて学ぶ。人の心理や行動が、他者や集団、社会によってどのように影響を受けているのかについて解説しながら、ひとりで行動している場面と、集団や組織のなかで他者と一緒に行動する場面で、人間行動がどのように異なるか(実態)、なぜ異なるのか(メカニズム)について考察する。 到達目標は、次の3点である。 (1)経営学や社会学に関連のある社会心理学の基礎的なキーワードの意味を理解し、説明できる。 (2)「他者がいる場面」における人間行動の非合理性について理解し、具体的な事例を3つ提示できる。 (3)自分の興味関心のある事柄と関連付けて、「他者がいる場面」での人間の行動や現象を社会心理学的な考え方にもとづいて説明できる。	◎							
		社会ネットワーク論	2	2	春	○ テーマ:「つながり」を科学する 本講義では、友人関係、家族やコミュニティ、組織といった身近な場面において、人びとが取り結ぶ社会関係を事例として、「つながり」を科学する方法やとらえる視点を学ぶ。人びとが取り結ぶ「つながり」が、実際に社会関係を取り結んでいる人たちや、社会に対してどのような効果や影響をもたらすのかについて考察する。 到達目標は、次の3点である。 (1)社会学におけるネットワークの基本的な知識や考え方を理解する。 (2)社会学におけるネットワークの測定方法を理解する。 (3)ネットワークという視点と考え方を使って、身近な社会現象を読み解くことができる。	◎							

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
方法	社会学理論	2	3	秋		本講義は、人間の社会的行為や社会集団の構造や機能について学び、社会を読み解く力を身に付けることを目指す。 まず身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念と社会学的なものの方について解説する。それらを通して、人が他者から影響を受け、また他者に対しても影響を与える存在であることを理解するとともに、社会全体の仕組みについて学ぶ。講義では個別テーマを取り上げ、現代社会の動向を社会的にとらえていく。 到達目標としては、人間関係や社会現象・問題を解説する「社会学的想像力」を身につけることである。	◎		◎					
	時事問題	2	3	春		テーマ：現代社会を知る。今、人類は歴史的大変革の時代を迎えている。今後人類はIT社会(Society4.0)はわずか30年前後で終わり、現実とサイバー空間が融合する社会(Society5.0)を生きることになる。このような社会で政治・経済・法律・教育・文化がどのような状況にあるかを知る。到達目標：時事的な現代社会の状況を理解する。少なくとも新聞・ニュースの話題が理解できるようになることを目標とする。		◎	◎					
	社会調査入門	2	1	春	○	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する科目である。具体的には、社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、社会調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査等の公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項を学び、基本用語を使えるようになることが到達目標である。 なお、この科目は、社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムのA科目に該当する。	◎	◎						
	調査研究法	2	1	秋		本講義は、社会調査の結果を分析できるようになるための基本的な方法を習得することを目的とする。到達目標は以下のとおりである。 ①公的統計や簡単な調査報告、フィールドワーク論文を読むための基礎的知識を身につけること。②単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計やグラフの読み方を理解すること。③多様な質的データの読み方と基本的なまとめ方を習得すること。④相関係数などの基礎的統計概念を理解し、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念を把握できるようになることである。 なお、本講義は、社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムC科目に該当する。	◎	◎	◎					
	統計リテラシー	2	2	春		本講義の到達目標は、社会調査における①「調査設計」と②「実施方法」を習得することである。具体的には、社会調査によって資料やデータを収集し、分析可能な形に整理していく方法を学ぶ。サンプリング、調査票や質問文の作成方法、調査の実施方法（調査票の配布・回収法など）、および調査データの整理（コーディング、データクリーニングなど）の理解を通じて、調査設計と実施方法を体系的に習得することを目的とする。 なお、本講義は、社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムのB科目に該当する。		◎	◎					
	質的調査法	2	2	秋		本講義は、社会調査の手法の中でも質的データの収集および分析方法に焦点を当て、調査技術の習得を目指す実践的な授業である。到達目標は、質的データの収集方法（インタビュー法、フィールドワーク、参与観察法など）および分析方法（ライフヒストリー分析、会話分析など）を理解し、適切に活用できる力を身につけることである。あわせて、複数の質的調査を用いた研究事例の紹介・解説を通じて、質的調査法に対する実践的理解を深める。 なお、本講義は、社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムのF科目に該当する。			◎	◎				
	社会統計学	2	2	秋		量的な社会調査データにもとづいて、データの特徴や様子を記述する基本統計量（代表値、ちらばりなど）や2変数以上の関連性を記述する分析手法（クロス集計、平均値の比較、相関係数、単回帰分析）について理解する。そのうえで、確率変数や確率分布、中心極限定理といった確率論の基本的知識の理解を深め、統計的仮説検定の基本的な考え方や推測統計の基本的な分析手法（比率や平均の差の検定と区間推定、カイニ乗検定など）について学ぶとともに、演習をおこなう。 到達目標は、量的な社会調査データを集計・分析した結果を解釈するうえで必要な、推測統計学の基礎的な知識と理論を理解し、自ら分析や統計的検定や推定ができるようになることである。	◎	◎						
	量的データ分析法	2	3	春		重回帰分析、分散分析、因子分析を中心とした基礎的な多変量解析法の理論を学ぶ。同時に、統計パッケージを使って、実際の量的な社会調査データを分析しながら多変量解析について体験的に学習する。 到達目標は次の3つである。 (1)基礎的な多変量解析（重回帰分析、分散分析、因子分析）を使った社会調査データの分析結果をよみとり、解釈できる。 (2)統計ソフトを使って基礎的な多変量解析（重回帰分析、分散分析、因子分析）をおこなうことができる。 (3)多変量解析の結果を実社会の現象と関係づけて考察できる。		◎	◎					

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
社会生活	地域社会学	2	2	春		本講義は、地域社会を社会学的に捉える視点を養い、地域分析の基礎的知識とオープンデータを活用した分析力を習得することを目的とする。到達目標は、①社会学的な地域・コミュニティの見方や考え方を理解すること、②地域の現状および生活課題について各種事例から学ぶこと、③オープンデータ等を用いた地域分析の基礎的手法を身につけることである。講義を中心に、必要に応じて簡易な演習も取り入れ、地域社会を多面的に捉える力の育成を目指す。	◎				◎			
	情報と社会	2	2	春		近年急速に発展している情報技術をテーマに、これらを利用する際に必要となる諸技術に関する知識の獲得を目標とする。特に、社会を革新するクラウド・コンピューティング、ブロックチェーン、ディープラーニングについての知識の獲得を目標としている。これらの知識の机上だけでは困難であり、できる限りPCを使って実際に動作させてみることによって、より知識を深化させることも目標としている。	◎					◎	◎	
	職業と社会	2	2	秋		テーマ:「働く」という現象に注目して、個人の職業生活と社会(集団や組織)の関係性について社会的に考える。 到達目標は次の3点である。 (1)日本社会における雇用・労働を取り巻く社会的変遷について、産業社会の変動(高度産業化、脱工業化、情報化、サービス経済化、グローバル化)などの視点から理解できる。 (2)社会構造や「働く」ことに関する社会制度や雇用慣行が、人びとの働き方や仕事の満足度、働きがいと及ぼす影響について検討することをつづいて、個人の職業人生と社会の関係について複眼的に考察できる。 (3)国際比較をつづいて、日本雇用・就業の実態、勤労者の働き方の現状と課題について考察することができる。	◎					◎	◎	
	教育と社会	2	2	秋		本講義は、家庭、学校そして地域社会のなかで生起する「社会現象としての教育」を、教育社会学の理論をもとに考察することをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 ①日本の社会と教育の歴史的変遷を理解し、多角的角度から批判的に考察する力を身につけることができる。 ②家庭、学校、地域社会で営まれている教育、さらには、子どもの生活における現象を経済・社会・文化などと関連付け、その構造を理解することができる。 ③近年の教育政策の動向を理解し、未来の教育と社会の在り方について自分の考えを論理的に説明することができる。	◎					◎	◎	
国際科目群	異文化理解(ハングルⅠ)	2	1	春		この講義では、韓国語の文字構成(子音・母音)と音素、音節の構成原理(子音と母音の組合せ)を基礎から身に付け、読み書き能力を体系的に学修する。また、韓国語と関連する社会、文化、歴史、慣習などの背景をも学修する。 この科目を受講すれば、日本に隣接する韓国の社会や文化が理解できる。また、コミュニケーション・スキルとともに、韓国の友達をつくることができるようになる。				◎			◎	
	異文化理解(ハングルⅡ)	2	1	秋		この講義では、異文化理解Ⅰで学修したハングル(子音、母音)、基礎文法、日常生活会話を中心に、各テーマに対応できる実践会話を修得する。また、各テーマに対応できる実践会話の修得とともに、最終的には中級レベルの会話修得を目標とする。 この科目を受講すれば、日本に隣接する韓国の社会と文化が理解できる。また、コミュニケーションスキルとともに、韓国の友達ができることができ、かつ韓国への一人旅もできるようになる。				◎			◎	
	異文化理解(英会話Ⅰ)	2	1	春		国際コミュニケーションとしての英語能力は単なる言語ではなく、世界中の人々が同交流しているか、行動すべきか、どのような論争が起きているかを考察し、相違を乗り越えるためのツールであることを、実感し、その活用のスキルを磨くことを目指す。				◎			◎	
	異文化理解(英会話Ⅱ)	2	1	秋		To use and build our English skills. Especially our vocabulary, fluency, and listening. By the end of the course students will be used to communicating on everyday issues and topics and overcoming difficulties and their own language limits.				◎			◎	
多文化理解														

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
		日本文化と社会	2	1	秋	○	本講義は、外国文化を受容しながら独自の文化・社会を形成してきた日本の歴史を学ぶとともに、現代における日本文化や社会について理解を深めることをテーマとする。 到達目標は次の2点である。①文学、芸術、食文化、礼儀作法、遊びなど多様なトピックを通じて、日本文化の特徴や背景にある思想・歴史の変遷を理解することができる。②外国の文化や社会制度を採り入れ、日本の文化や社会が形成されていることを理解することができる。					◎			
		市民社会とボランティア	2	3	秋		本授業では、「市民社会」と「ボランティア」というキーワードを通じて、現代社会における人々の社会参加のあり方について学ぶ。市民社会の基本的な概念やその成り立ちを理解しながら、ボランティア活動の多様な形態や役割について考察する。地域や学校、災害支援、国際協力など、さまざまな場面における実践事例を取り上げ、市民による社会的課題への関わり方を幅広く学ぶことで、主体的な社会参加への関心と理解を深めることを到達目的とする。					◎			
	海外留学	グローバルスタ ディーズ基礎	2	2	春		本講義は、短期海外留学に向けた事前準備として、異文化理解、国際的視野、基本的な異文化対応能力を養うことを目的とする。留学先の社会・文化・歴史に関する基礎知識の修得とともに、語学力やコミュニケーション能力の向上も図る。講義に加えて、グループワークや発表を通じ、実践的な学びを深める。 到達目標とは以下4つである。①留学先の社会・文化に関する基礎知識を身につける。②異文化理解に必要な視点・態度を理解する。③留学先で求められる基本的な語学的・非言語的コミュニケーション能力を養う。④自らの留学目的や課題を明確にし、主体的に留学に臨む姿勢を身につける。				◎	◎	◎		
		グローバルスタ ディーズ実践演習	2	2	秋		短期留学を通じて、異文化体験、語学実践、国際的視野の深化を図ることを目的とする。現地での講義受講、施設訪問、交流活動等を通じて多様な価値観に触れ、国際理解と実践力を高める。滞在中には実習記録を作成し、帰国後にはその成果を整理・発表することで、学びを振り返り、今後の自己成長につなげる。 到達目標は以下4つである。①現地の社会・文化・教育に主体的に関わり、多文化理解を深める。②英語による基本的なコミュニケーション能力を実践的に高める。③実習記録を通じて体験を客観的に整理し、自己の成長を言語化できるようになる。④帰国後の発表(留学報告会)を通じて、学んだ内容を他者に伝える力と自己表現力を養う。							◎	◎
社会人 スキル科目群	リテラシー	ビジネス日本語(基礎)	2	2	春	○	本講義は、日本のビジネスの現場で求められる日本語力の基礎を養うことをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 (1)基本的なビジネスマナーについて理解することができる。 (2)ビジネスの様々な場面で、敬語を含む表現を適切に用いてコミュニケーションをとることができる。 (3)ビジネスメールの書き方を理解し、実際に書くことができる。				◎				
		ビジネス日本語(応用)	2	2	秋		本講義は、日本のビジネスの現場で求められる日本語の運用力を養うことをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 (1)ビジネスマナーについて理解することができる。 (2)ビジネスの様々な場面で、敬語を含む表現を適切に用いてコミュニケーションをとることができる。 (3)ビジネスメール・ビジネス文書・履歴書・自己紹介文の書き方を理解し、実際に書くことができる。				◎				
		法学入門	2	2	秋		本講義(法律の基礎知識、憲法の構成と基本原理、民法学の基礎知識、家族法の基礎知識、契約一般の基礎知識、訪問販売・割賦販売等の基礎知識)を通して、生活上の諸問題や社会の動向に関して興味関心を持ち、何が正しいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得することを到達目標とする。	◎		◎					
		メディア・リテラシー	2	2	秋		メディア環境が多様化する中、主に新聞を中心とする伝統的ジャーナリズムの役割について基礎的な理解を深める。達意の文章といわれる新聞記事の特徴を知り、文章を書くコツを学ぶ。就職活動のエントリーシートづくりや、社会人になって企画書を担当する際にも役立てられるようにする。		◎	◎					

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
スキル	コミュニケーション・ スキル基礎	2	1	春	○	本講義は、大学生活および将来の社会生活において必要となる基本的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。自己理解を深めながら、自他の多様性を尊重する姿勢を育み、他者との円滑な相互理解に基づく対話力を身につける。また、留学生を含む多文化的な学習環境を活かし、異文化コミュニケーションの基本的知識と実践的態度を学ぶ。 到達目標としては次の4つである。①自己理解を深め、自分の考えや感情を適切に表現する力を身につける。②他者の意見や立場を尊重し、傾聴や共感の姿勢をもって対話に臨む力を養う。③多文化・異文化的な背景をもつ他者との違いを理解し、相互理解に基づく交流ができるようになる。④学内外でのコミュニケーションにおいて、基本的なマナーや態度を身につけ、実践できるようになる。				◎				
	プログラミング入門	2	1	秋		プログラミングにおける基本的な考え方、構造化プログラミングを習得してもらうことを目標としている。本講義ではscratch、Power Automate Desktopを使ってビジュアルプログラミングを行うことで、その後のテキストベースのプログラミングへの発展の足掛かりとなる技能を習得してもらうことを目標としている。また、これらのアプリケーション習得を目指す中で、日常的にPCに触れ、PCセントラルな考え方も習得してもらいたい。		◎						
	ファシリテーション	2	2	秋		「集団による課題解決など、知的創造活動を支援するファシリテーション技能の習得と活用」をテーマとし、ファシリテーションの理論と技能を学ぶ。 到達目標は、①合意形成におけるファシリテーションの重要性を理解している、②ファシリテーション技能を身につけ、実践で活用できる、③ワークショップのファシリテーターとして話し合いを支援できる、である。				◎				
	コミュニケーション・ スキル応用	2	3	春		本講義は、社会人として必要とされる実践的なコミュニケーション能力を高めることを目的とする。プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイ等の演習を通じて、自己表現力や論理的思考力、対人対応力を磨くとともに、ビジネスシーンを想定した実践的なスキルを身につける。特に就職活動を意識し、エントリーシートの作成や面接対応に必要な表現力・対話力の向上を図る。 到達目標は次の4つである。①自分自身の考えや経験を簡潔かつ論理的に伝える表現力を養う。②多様な相手や場面に応じた柔軟な対人対応力を身につける。③ビジネスや就職活動の場面に対応できるプレゼンテーション力・面接対応力を習得する。④自己分析に基づいた自己PRや志望動機を的確に言語化し、相手に伝える力を身につける。				◎			◎	◎
	インターンシップ	2	3	秋		「実社会を経験し、有意義な大学生活を送る」をテーマとして、企業における実習を経験し、社会人としての基礎知識を身につけるとともに、その後の大学生活を有意義に送るためにはどうすればよいか、自分で考え、自分で行動できる能力を身につけることを到達目標とする。								◎